

開 会

鈴木良雄議長 皆さん、おはようございます。
これより本日の会議を開きます。

開 議

鈴木良雄議長 本日の会議に欠席の通告議員は
ございません。よって、ただいまの出席議員
は定足数に達しております。

なお、13番、大沼 久議員より、午後から早
退させてほしい旨の届け出があり、許可いた
しましたのでご報告いたします。

なお、きょうは大分暑くなるようであります
ので、上着の着脱はご自由にさせていただき
たいと思います。

本日の会議は、配付しております議事日程第
2号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

鈴木良雄議長 それでは、日程第1、市政一般
に関する質問を行います。

なお、質問は答弁を含めて、60分以内となっ
ておりますので、ご協力お願いをいたします。

我妻 昇議員の質問

鈴木良雄議長 それでは、順次ご指名いたしま
す。

初めに、順位1番、議席番号1番、我妻 昇

議員。

(1番我妻 昇議員登壇)(拍手)

1番 我妻 昇議員 おはようございます。

市会議員に当選以来、トップバッターで質問
するのは初めてでございますので、緊張してお
ります。お聞き苦しい点がありましたら、ご了
承いただきたいと思っております。

まず、今9月定例会におきまして、市政一般
に関する質問をさせていただきます。通告して
あります4項目について順次質問いたしますの
で、市長並びに当局のご答弁をお願いしたいと
思います。

最初の質問は「まつりとゴミについて」です。
祭りといっても、ここでは市民花火大会を例に
挙げ、私なりに感じたことを述べさせていただきます。

ご存じのとおり、市民花火大会は水まつりの
一環で行われていますが、私はここ3年ほど青
年団体連絡協議会の一員として売店運営に携り、
また、観光協会の理事として、まつり全体の運
営にもかかわってまいりました。

長井ダム工事事務所や上下水道組合との連携
で、水に親しむ場を提供したり、ジュニアリー
ダー長井組やバンドグループ、またダンスグル
ープの参加で、若さと躍動感をアピールしたり、
さらにはゆかたを奨励することで「夏の祭り」
を演出するなど、さまざまなイベントを企画し、
工夫してきたことが影響したのか、毎年お客さ
んが増加傾向にあるようです。

つけ加えて、来年は市内中心部の飲食店との
連絡をとり合って、祭りの経済効果の向上を目
指すということです。

しかし、一方では悪い面もあります。子供会
行事と毎年時期が重なるということで、開催日
時への不満があります。また、イベントのマン
ネリ化もあります。花火の規模が小さいなど、
いろいろ挙げられると思いますが、私が特にこ
とを感じたのが、ごみです。人の増加に比例し

て年々ふえているように思います。量もすごいのですが、もっとひどいのがマナーです。燃えるごみ、燃えないごみ、缶、ペットボトルなど分別できるようにごみ箱はそれぞれ置いてありましたが、守らない人が多過ぎて、祭りの終了後の後片づけが大変でした。市職員と観光協会が夜遅くまで分別作業が続きました。

私はこれが毎日視察者が後を絶たない「レインポーブランのまち長井」なのかと目を疑いました。環境ISOを取得し、ポイ捨て防止条例を制定した「環境のまち長井」として、とても恥ずかしく思いました。

もちろんのことですが、花火を見に来る人は長井市民だけではありません。だからマナーが悪いのでしょうか。いや、違います。仮にそうだとすると、ここはチャンスだと思うべきです。その意味は、環境のまち・分別のまち・循環のまち、そして安心安全のまちだということ内外に知らせるチャンスだということです。特に花火大会は、圧倒的に若い人たちが大勢集まってくる。日ごろ親にやってもらっている分別を自分でしなくてはならないとしても、今の若い人たちはすぐに適応できると思います。学校で環境問題を徹底的に教育されているでしょうから、何でお祭りなのにここまでするのと疑問に思いながらも、協力してくれるのではないのでしょうか。ただごみ箱を置いておくのではなく、商工観光課、企画調整課などが一体となり、観光協会との協力のもとで、知恵を出し合って創意工夫をして、ごみの減量や市民の環境に対するレベルアップを図っていくべきではないのでしょうか。

商工観光課長には、水まつり全体におけるごみの発生状況をお聞きし、企画調整課長には今述べましたことについてのお考えをお聞きします。それぞれお答えいただくように、お願いいたします。

次に、広告は長井市を明るくするという視点

から質問いたします。

最初はバスの広告についてです。このたびの9月定例会に上程されております議案第56号の市営バスの設置条例がもし制定された場合は、その利用者のほとんどは市内中心部の個人医院へ向かうためか、もしくは公立総合置賜病院へ向かう目的で利用するであろうと思われるが、幾らそのようなニーズがあろうとも、すぐに採算が合うとは限りません。

そこで、私は、バスに広告を掲載してはどうかと考えました。バスの外観全面にラッピング広告をしてもいいだろうし、車内にポスター広告を張りつけてもいいだろうし、いずれにしても法的に、または制度的にクリアできれば、すぐにも広告掲載の募集をすべきだと思います。医療関係、介護関係の企業はもとより、個人商店やスーパーの宣伝での活用や、もしかするとイベント情報の周知媒体として活用したいという市民が申し込むのではないかと考えられます。そのお金を運営費の補助やメンテナンスに回していけば採算ベースに乗っていくのではないのでしょうか。

ましてや、私が言う長井市を明るくするという意味でも、モノトーンの暗いバスよりカラフルで見ていて楽しいバスの方がいいだろうと思うわけです。新しいバスに限らず、地域の力で運営している西根バスや伊佐沢バスにも同じことが言え、検討してみる価値があると思われるが、企画調整課長はどのようなお考えがお聞かせ願います。

また、以前に「市で使用している各種封筒に市内企業の広告を掲載できないか」という質問に対し、市長は財政課で検討させると答弁されました。その結果を私個人には答弁書という形でいただきましたが、お手数ではありますが、ここで改めて財政課長に答弁をちょうだいしたいと存じます。公用車の広告についても同じくご答弁をよろしく願います。

3番目の質問に移ります。私の質問では、昨年から再三にわたり質問してまいりました。蒲生光議員にいたっては5年前からこの窓口延長について質問してまいりました。職員組合との折り合いがつかないこと、苦肉の策で管理職が交代で金曜日のみ1時間だけ窓口の延長に踏み切ったこと、今後は代休や交代制、フレックスタイム制などを検討して、職員組合と折衝をしていくということ、これまでの経緯は十分にわかっております。

その後、現在はどのような体制で窓口延長を行っているのか、また、今後それを拡大しているのか、また、土曜・日曜の開庁は可能かなど、市民課長にお聞きいたします。

若い夫婦が独立して生活している場合、そのほとんどが共働きです。平日の日中に時間を割いて市役所に来ることが難しいということは、だれもが理解できる現状です。さらには最近製造業が忙しいということで、残業が大分ふえてきているように聞きます。平日の中で金曜日は一番残業が多い日ではないかと予想され、1時間程度の窓口延長では市民のニーズにそぐわないと私なりに考えております。市民課長の答弁をお願いいたします。

最後の質問は、勤労青少年ホームについてです。この言葉を聞いて、どこにあるのか、どのような役割を果たしているのか、すぐにわかる市民は少ないと思われるほど、最近ではなじみの薄くなった施設になってしまいました。勤労青少年ホームは、文字通り働く若者が余暇の時間を使ってスポーツや趣味に汗を流し、健康的に健全に働き、生活していくための施設といったところですが、近年娯楽がふえ、個人主義の傾向が強くなったにつれ、全国的にその利用者が少なくなっているようです。長井市の青少年ホームも同じような流れであると思われますが、最近の状況はどのようなものか商工観光課長にお聞きし、今後どんどん老朽化する中で職業訓

練センターや中央公民館と併設しているこの施設を、今後どのような活用方法やあり方を考えているのか、市長にお尋ねします。

ばらばらでまとまりのない四つの質問になってしまいましたが、わかりやすい答弁をお願いして壇上からの質問とします。ありがとうございます。（拍手）

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 おはようございます。我妻議員のご質問にお答えをいたします。

勤労青少年ホームについてであります。勤労青少年が充実した職業生活を営むため、職業指導や相談、あるいは教養の向上のための講習や研修会の開催、余暇活動の支援などを目的に設置・運営されました。しかし、ご指摘のように、勤労青少年のライフスタイルや職業に関する意識などが変化をしております、全国的にもホーム利用者が減少しておると聞いております。

全国の勤労青少年ホーム協議会加盟の502ホーム、502あるそうですが、昨年1年間で、そのうち32ホームが閉館、あるいは脱会しているそうです。東北地区でも92ホームのうち5ホームが閉館、あるいは脱会という状況であります。県内では、長井市のほかに山形市、天童市、上山市、寒河江市、村山市、南陽市に設置されておりますが、寒河江市は財政事情から、今年度から名前は残りますが閉館状態、山形市を除く各青少年ホームにも、主に指導員のみでの配置で貸し館的な状況とお聞きしております。

その中では長井市は、我妻さんご存じのとおり、若い皆さんも一生懸命頑張っておられて、十分とは言えませんが、勤労青少年ホームの設置・運営方針に従って、お茶であるとか、いろいろな余暇活動の支援や、あるいはこの若い皆さんの講座等も開設を行っておりますし、今後もこのような形で運営をしていきたいと。これは大事にしていきたいというふうに思って

おります。以上です。

なお、残余の質問につきましては、まず課長から答弁をさせていただきます。

鈴木良雄議長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 おはようございます。

我妻議員のご質問にお答えいたします。

水まつり会場におけるごみの発生状況はというご質問でございましたが、水まつり会場におきましては、議員のご質問にもございましたとおり、可燃物、不燃物、缶、瓶、ペットボトル、プラスチックなどに分けて回収しております。ただ、なかなか分別がきちんとされていないというふうな状況は、先ほど議員のご質問にあったとおりでございました。

ことしのごみの量でございますが、960キログラムというふうな量でございました。昨年度は710キログラムでございましたので、約35.2%ふえているというふうな状況でございます。やはりことしは非常に人出も、観光客の方も多かったということで、ごみの量がふえたのかなと。また、出店された業者の方も多かったというふうなこともあったのだというふうに思っているところでございます。

続きまして、勤労青少年ホームの利用状況についてですが、サークル活動のほか、利用者会関係の事業として、余暇活動やボランティア活動など、勤労青少年ホームの活動として教養講座の開催やビアパーティー、新春の集い、ハートナビゲーションなどを行っているところでございます。また、あわせまして、山形県勤労青少年ホーム連絡協議会の関係の事業といたしまして、利用者交流会やスポーツ交流会などの事業に参加しております。

年間活動をいたします登録のサークル数でございますが、18団体で利用登録者は267名でございます。これは平成14年度より65名ふえております。年間の利用者でございますが、3,094人でございます。個人利用者が192人というふ

うな状況になっているところでございます。

教養講座でございますが、これはテニスとか英会話、中国語会話、ゆかたの着つけなど9種類で、前後期含めまして13講座を開催しております。受講者の実人数は155名で、受講者の延べ人数は1,004人となっております。その他の行事や会議の利用者を合計いたしますと、勤労青少年ホーム全体で4,742人で、14年度よりも660人ふえているところでございます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 それでは、我妻議員の質問にお答えいたします。

まず初めに、水まつりの際のごみの減量についてでございますけれども、祭りの場というのは普段の生活の場所とは違うといった感じが、ある程度会場に来られた方にはあるという感じをしております。ただ、レインボープランを推進しておりますし、環境ISOも取得をしておりますので、長井市といたしましては、こうした場でも環境に配慮した取り組みを進めると。こうした視点というのは必要でないかというふうに考えております。例えばごみを分別できるようにごみ箱は設置しておりますけれども、そこのごみ箱の周辺に実際にごみがふえている実情を説明をするなり、あるいは分別の方法を、単に言葉による区分ではなく、文字による区分ではなく、イラスト等によりまして区分をしまして分別を誘導するといったことも考えられるのかなというふうに思っております。ただ、実際に実施します団体もありますので、そちらの方と協議をいたしまして、そういった分別の誘導というのは効果があるのだろうかというのを、今後検討していきたいというふうに考えております。

もう一つの、市営バスに広告を掲載という点につきましてであります。公営企業といたしましてバス、あるいは電車等を運営しております

自治体におきましては、もう既に車内広告なりというのが一般化しているようでございます。ただ、公営企業とはならず、自治体のバス運行をしている団体につきましては、まだまだ車内の広告なり車外広告というのは少ないというのが実態でございました。ただ一部には、実際に広告を実施しているところもございますので、そうしたところの情報を集めまして、実施の方法などを研究していきたいというふうに考えております。

基本的には車内広告からまず始めていきたいというふうに考えておりますけれども、どのくらい広告に対するニーズがあるのかというのもまだわからない状況でございます。また、車内に広告を掲示する場合、こういった掲示の方法があるかといったところも、これから検討していかなければなりませんので、いろいろな事例を収集いたしまして対応を考えていきたいというふうに思っております。

また、実施が可能であるというふうになりましたら、できるだけ市内のミニコミ誌で広告等をやっている団体もありますので、そうした皆さんのお知恵を拝借するなり、そういった組織を使いまして活性化が図れるようなことを考えていきたいというふうに思っております。

鈴木良雄議長 松本 弘財政課長。

松本 弘財政課長 おはようございます。

市で使用する封筒に広告掲載できないのはなぜか。公用車に広告を掲載したらどうかの2点についてお答えいたします。

平成16年3月議会におきまして経費の節減、市民との協働という意味におきましても、広告掲載を検討してみてもどうかとの我妻議員からのご提言を受けて、先進地である群馬県太田市の例を調査しながら、当市といたしましてどのような方向で実施できるのかなどについて検討した結果がございましたので、その結果と経過な

どにつきまして、改めてご報告をいたします。

まず太田市の場合ですが、路線バスの側面に広告が掲載されている例が数多く見られることなどから、市の公用車にも民間企業の広告を掲載することで広告収入を得て、公用車などの維持管理経費の財源とすることができないかとの市長の発案によりまして検討がなされたようであります。

公用車への広告を掲載するにつきましては、広告を掲載することにより、市の業務や市民の方々への影響などを考慮しながら慎重に検討したとのことで、結果的に税務部門や福祉部門など、個人宅を訪問する機会の多い車両や教育関係の車両を除く公用車や、マイクロバス及びごみ収集用のパッカー車に限定いたしまして、平成13年度から実施しているとのことであります。

なお、実施当初の平成13年度は、28台の車両を対象にして広告を募集したそうではありますが、結果的には19台分の応募しかなかったというふうなことであったようです。ちなみに今年度は14台の募集にとどまっているというふうな中身のようであります。

また、このことを契機といたしまして、公用車以外にも民間企業の広告を掲載できるものがないというふうな検討をしたようでありまして、その結果、平成13年度から市民窓口で市民が持ち帰り用に使用する封筒に限って、広告を掲載しているようであります。初年度は6枠分の応募に対しまして8枠分の応募があったため、8枠分を掲載したそうではありますが、スペースの関係で6枠分が適当と判断され、2年目からは6枠分を超える場合には抽選で決定するというふうなことで募集をしているところでありますが、2年目以降はその6枠分しか応募がないというふうな状況のようであります。

次に、これらのことを踏まえて本市で検討した結果についてご報告をいたします。

行政事例によりますと、司法上の契約を締結

すれば、一般広告を掲載することは可能とされておりまして、公用車や市で使用する封筒に民間企業の広告を掲載できないというふうなものではございません。ただ、公用封筒に一般広告を掲載することのメリットとしましては、市の印刷経費が節減できるであるとか、広告主に対する側面的支援が可能だというふうなことが挙げられると思います。

デメリットといたしましては、広告料を負担いただく以上、広告主にある程度満足いただけるものでなければならず、目立つような工夫もしなければならぬため、郵送されたものを受け取られた方が、市からの差し出しなのか、広告主からの差し出しなのか判別しにくくなるというふうなことが懸念されることです。この点を考慮した場合、税務課などで使用する特殊封筒はもちろんのこと、郵送に使用する一般用封筒に広告を掲載することは適当でないというふうに考えられるところでありまして、太田市におきましても、このような観点から市民窓口の持ち帰り用封筒に限定して実施しているものというふうに思われます。

また、本市の市民窓口で使用している持ち帰り用封筒につきましては、現在使用済み封筒を再利用しておりますが、このことは単に経費を節減するというふうなことだけではなく、環境負荷の低減という観点からも、特に改善しなければならないというふうなことではないと思っております。今後ともこの方針を継続していくことが適当であると考えているところであります。

公用車への広告掲載につきましては、太田市が公用車を広告媒体として提供を決定する際に、このことが市の業務や市民の方々へ及ぼす影響などを考慮し、税務部門や福祉部門などの個人宅を訪問する機会の多い車両や教育関係の車両を除くとしたことは当然のことであるというふうな考えられます。当市の場合、数少ない台数

の公用車を効率よく使用するために、特殊な車両を除いては集中管理というふうな方法で管理を行っているところでありますけれども、したがって各部門ごとの専用車両を設けてはございません。したがって、どの車両が個人宅を訪問する頻度が多いかなどについては特定されていないところであります。

また、当市では、公用に使用するマイクロバスを廃止しましてレンタカーで対応しておりますし、ごみ収集車についても、パッカー車などは使用しておらず、レインボープランの生ごみの収集用のトラックを所有しているだけでございます。

以上のことから、広告媒体として提供することが適当と思われるような車両が当市には見当たらず、公用車への民間広告への掲載は困難な状況であるというふうに判断しているところでございます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 小泉良一市民課長。

小泉良一市民課長 我妻議員の窓口延長のことについてお答えをさせていただきます。

現在までの取り組みでございますが、市民課の窓口延長は、平成13年11月から15年3月まで、午後6時まで管理職で対応してまいりました。交付対象は、住民票、戸籍謄抄本、印鑑証明書5種類でございます。その結果、申請件数が延べ461件、1日平均で3.7件のことでございました。平成16年の4月からは、さらなる市民サービスの向上を図るために市民課職員での対応で、3月まで実施してきました5種類に加えまして、所得証明書などの税証明、13種類の証明書の発行をするようにいたしました。実施時間については、午後6時までというふうなことで変わっておりません。その結果は、住民票や印鑑証明書の交付に加えまして、所得証明書などの税証明の新メニューの発行が25%ほどと結構ありまして、1日当たりの平均が4.0件というふうな

ことで若干増加したところでございます。

土曜日、日曜日、あるいは時間の延長というふうなことでございますが、さらなる延長などについてコンピューターなどの委託契約が年間150時間というふうなことで時間外業務という設定でございます。それを超えますと、時間外窓口対応について別途費用が必要となってまいります。このため、財政再建中ということでありまして、現在の体制を維持してまいりたいというふうに考えているところでございます。

そして、金曜日は延長の日としてそぐわないというふうなご指摘がございました。職員組合との協定が成立したばかりでございます。あるいは現在実施しているのが定着をしているというふうなこともございますが、その曜日について若干検討いたしました。市民の要望も月曜日というのがございます。他の市でお聞きしたところ、金曜日よりも月曜日の方が効果があるというふうなことが出まして、月曜日に変更するように検討させていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。まず、ごみの方からしたいと思いますが、約1トンぐらいのごみが出ているのだということでありました。若い人たちが特にだと思っておりますけれども、どうもレインボープランの生ごみを分別する作業がどうも最近、ここ何年かちょっとわからないのですが、その作業が低下しているのではないかなと思います。私の周りを見ても、独立して住んでいる夫婦は、特にアパートに住んでいる人、雇用促進住宅に住んでいる人なんかは、まずほとんど分別していないのではないかなと思われま。いろいろな理由があるでしょうけれども、これは最近どうも啓蒙活動を怠っているのではないかと私なりに思います。

千代田クリーンセンターの可燃ごみの状況を

見ても、ここ3年ぐらい急激にふえております。それは平成12年度からどんとふえておるようでございます。これはダイオキシンの防止条例というのですか、ダイオキシン問題が出たときに、もう野焼きができない、ごみを各家庭で焼けないというようなことが決まりまして、それ以来、燃やしていたごみを燃えるごみに出したからふえたというような見方もあることはあると思いますが、どうも市民のごみ分別の意識が下がってきたと。千代田クリーンに燃えるごみで出してしまえというような感じがどうもあるのではないかなと思います。それで、絶好の祭りというチャンスを生かすべきではないかなと思った次第であります。

企画調整課と商工観光課が共同でそれを企画するとか、市民課、ごみの担当の方の知恵を拝借してとか、いろいろ横の連絡をとれば、あの祭りが長井市をアピールできる、「環境のまち長井」をアピールできる場になってしまうのではないかなと思ひまして提案させていただきました。

企画調整課長は、ごみ箱の近くにイラストを置いたり、啓蒙のチラシを張るといようなアイデアはどうかというふうなことでしたが、商工観光課長なんかはどのようにお考えか。何かほかの祭りのデータとかがあるというふうなことをお聞きしましたので、例えば売店の方も工夫すべきだと思います。売店の方だって、プラスチックから何から、割りばしからこんにゃくの串から非常に多いごみを出しているわけで、それを工夫した祭りもあるというふうなことも伺っております。商工観光課長、よろしいですか。お願いします。

鈴木良雄議長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 ただいまの質問にお答えいたします。

確かにごみの分別をご理解いただくというのは大変なことだというふうに思います。先ほど

+

企画調整課長からございましたように、イラストを使ってよりわかりやすくという方法も一つだと思います。もう一つ私の方で考えたいと思っているのは、やはりお祭りに出店されている方々にもご協力をいただきたいものだなというふうに思っております。観光客の方のご協力とあわせて、出店されている方の意識も変えていただければ、もっともときちんとした分別もできるのではないかなというふうなことを考えております。

例えば、江戸川区の区民祭りに私どもも参加させていただいておりますが、江戸川区民祭りでは、いわゆる発砲スチロール製といいますが、そういったもののトレーは一切使ってはだめになっております。あちらでは環境にやさしいトレーということで、これは葦とかさとうきびの絞りかすでできたトレーだそうで、これはすぐ堆肥化できるのだそうです。やはりそういったことも、これからの検討課題の一つではないのかなというふうに思っているところでございます。

江戸川区民祭りの例をもうひとつ申し上げますと、例えば割ばしとか串のたぐいはすべて別に回収しておりました。やはりそういったことも大変大切なのかなというふうに思います。今回、祭りが終わりましたから、みんなで分別作業をしたのですが、その際、やはり串とかはしが非常に危険なのですね、作業をしている人に。その辺も含めて今後の検討課題なのかなというふうに考えているところでございます。

以上です。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

そういう工夫をして、ごみに対する、環境に対する啓蒙活動をしているというようなところもあるということで、ぜひ長井市でも、観光協会の皆様には大分負担もかかってくることもかもしれません。私も言いづらいことなのですが、

ども、そういうことを観光協会としても考えていただいて、市としてもその指導をしていく、もしくは一緒にやっていくというような試みをしていただきたいと思います。

千代田クリーンセンターに出すごみを減らせば、負担金というか分担金が減るわけです。千代田クリーン全体に対する長井市のごみで、それを分担してお金を払うわけですが、長井市のごみが減れば、長井市のパーセンテージももちろん減りますし、ほかの市町村のパーセンテージが上がるということで、非常に金額的に大きい効果があると思います。どうも分別をすると、固定費は運送固定費というのですか、分別をすればするだけ車でとりに行く経費はかかっているわけで、後はどこでお金を浮かすというか、かけないかという、生ごみを分別することで可燃ごみを減らすと。千代田クリーンセンターになるべく出さないことが、財政的にもメリットがあると思います。今、15年度でたしか2億円の分担金ですよね。2億円の分担金を千代田クリーンセンターに払うと。それはいろいろなパーセンテージ、いわゆる掘り割りで計算上そうなるのでしょうけれども、減らせば減らすだけ、その価格がどんどん減っていったメリットがあるのだと。環境に対する意識も変わるし、金額的にもメリットがある。ぜひこれを各課、横の連絡をとって取り組んでいただきたいと思います。

市長、答弁を求めていますでしたが、市長の考えも伺ってよろしいでしょうか。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 我妻議員のご指摘のとおりだと思います。そういった努力をしなければいけないと。私は、会場内のマイク、女性の方が交代交代でやっていらっしゃるんですが、やはりこのマイクでも、30分置きとか1時間置きに、会場内にそういった呼びかけをすることの方が、ごみの分別に長井市は非常に力を入れております

と。レインボープラン、ISO14001、あるいはポイ捨て防止条例等もやっておりますので、ぜひご協力をお願いしますと。会場内の皆様、はしなりトレーなり、あるいは串とかそういうものは、所定のところに置いてありますから、係員にお尋ねいただいて、そこに分別をお願いしますというようなことも、30分置きで大変だったら1時間置きとか、それから最後に何度も念を押すとかというようなことをやりながら、今、商工観光課長が調べておりますように、江戸川区あたりの非常に再生しやすいようなものに変えていくには、出店の方に対してもご協力をいただかなければいけませんし、いろいろな方法をしながら、行政も観光協会も、あるいはおいでいただく市民の皆さんも、あるいは市外からいただいた皆さんにも、分別にご協力いただけるようになおひとつ工夫をしながら、少しずつ、一つずつでも前進できるようにしていきたいというふうに思います。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

最後に市民課長に、ちょっと予定外ですけども、ポイ捨て防止条例のことで山新の9月2日の朝刊に大きく載せられてありました。ポイ捨て防止条例施行2カ月ということで、どうも市は美化推進員の任命を先送りしているというようなことが報道されておるようです。これは9月2日の新聞ですので、その後どのような取り組みをしているのか。このポイ捨て防止条例は、ことし施行になったわけですから、今度来年にはどういうふうにさらにパワーアップするだとか、いろいろなことがあるかと思えます。ちょっとそれだけ一言いただきたいと思えます。

鈴木良雄議長 小泉良一市民課長。

小泉良一市民課長 お答えをいたしたいと思えます。

ポイ捨て防止条例につきましては、7月施行

になりまして、現在は不法投棄監視員の方を2名雇っております、広報車で呼びかけをしているところがございます。また、ごみがあれば拾ってくるというふうな作業をしているところがございます。また、自動販売機のラベルの張り方や、あるいは看板の設置ということで取り組んでおります。あと、市の監視員ということで任命をしたところがございます。

また、お話の新聞にもありましたように、美化推進員ということでも、市報などで呼びかけをいたしました。その結果、新聞にもあるように、3名の方ということになったわけございまして、非常に少なくありました。衛生組合の総会の折にでも、ごみの不法投棄防止ということで重要な施策にもなっているということで、美化推進員の方の取り組みをお願いしたところでございますが、市の衛生組合ではそのようなことがございましたが、地区の方にまだ反映がなっていないということもございまして、まだ足踏みをしているというふうなところでございます。ぜひ地区レベルに広がっていきますように美化推進の方、多くされますように、このこともいろいろ衛生組合など取り組みをいたしていただけるように考えているところでございます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ポイ捨て防止条例は、16年度の途中から施行になったわけですから、さまざま地区に負担をするだとか、大変だったと思います。実質は17年度からの本腰が入るのではないかなと私も思っておりますが、警察のように取り締まりをするわけではないというか、そこまでの実効性がないわけで、あくまでも啓発・啓蒙が大切だと思います。先ほどの祭りのこともそうなのですが、ぜひ市民課長もその横の連絡に入っていて、ぜひそのPR、啓発・啓蒙活動に力を入れていただくように、各

課との連絡をとっていただきたいと思います。

では、次に広告の方に移りたいと思います。財政課長は、まず封筒のことでと公用車。公用車はどうも無理みたいですね。私もよくわかりました。集中管理もしていないし、個人宅に行くと、いろいろな広告が入っている車が乗りつけられても、それは確かにいけないことだと思いますし、あと、ごみ処理のパッカー車ですとかそういうのも一括で委託しているわけですから、なかなかそういうことにもいかないということで、公用車はちょっと無理のようですね。

しかし、太田市の封筒の裏を見ると、非常にさわやかで、文字は小さいのですが、市と企業が何か一体となってやっているなというような印象を受けます。金額の問題もそれはそうだと思うのですが、イメージとといいますか、明るさというのですか、私なりに、広告は長井市を明るくすると言いますけれども、明るさがあるような気がするのです。これはさまざまな問題、どこから来たのかわからない封筒になってしまうのではないかと、そういうこともあるかと思いますが、それはクリアできる問題ではないかなと思います。県やほかの市町村から届いたこういう封筒を再利用して使っているという努力は、非常に頭の下がることでありますが、こういう人をさわやかにさせる、明るくさせるようなこともあえてしてみたいかがかというようなことで質問したわけです。

財政課としてはできないのだというようなことでしたが、市長、どうお感じになりますか。すみません、よろしいですか。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 まず、なるべく封筒の再生、再利用をしたいと思いますが、それで足りない部分については、やはり検討することも私は、1枚当たりのどれぐらいの単価になるかということもあると思いますし、そこに何件出してくれるかということもあると思いますから、再生の

あれだけで足りない部分については検討するというは、再度財政課ももう少し検討してみろというふうに言ってみたくと思います。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。ぜひもう一度検討していただきたいと思います。

バスの広告の方なのですが、公営企業はまずほとんど一般的に広告をしているようです。市営バスを市が業者に委託して、その業者のところではやっている。ただ、直接自治体が運営しているところはまだ一部分に過ぎないというようなことでしたけれども、別に法的にも制度的にも問題がないということで、今後車内から取り入れていくというような方針だということで、ぜひとも車内に限らず車外のラッピング広告というのですか、それでぜひ市内を明るくしてほしいと思います。今回の条例が制定されてからの新しいバスもそうですし、現在運行しております地域のバスがありますね。そこの方にも連絡をとってできるのではないかなと思いますので、それは市がどうのこうのと言うところではないかと思いますが、提案してみたいかがかと思っております。

ところで、バスのことに絡んで、少しはずれてしまいますけれども、質問させていただきたいと思います。

今回の条例で走らせようとしているバスについて、山鉄さん、フラワー長井線との連携、山形鉄道株式会社との連携はとっているのかと。お互いに利用者にとって便利な交通手段になればいいわけですから、山鉄と連絡をとっているのかどうかということと、安全運行のためにはどのような対策をとっているのかと。民間の場合は、運行管理者というのですか、安全管理者というのですかね。そういうものを置いていると思いますが、市の方ではどんな安全運行をするのかということと、また、山形鉄道に対する支援を県に求めている今の時期ですので、県の

担当者といいますが、県の方にはどのような報告をしているのか。また、その担当者はどういうふうに思っているのか、そこら辺もわかればお聞きしたいと思います、企画調整課長、よろしくをお願いします。

鈴木良雄議長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 今回提案させていただいております新しいバス路線の運行についてでありますけれども、現在走っておりますシャトルバス、今泉駅から広域病院までの利用状況でありますけれども、大体40人から50人の1日の利用客がございます。往復の利用でありますので、大体20人ちょっとが1日の利用者というふうな状況でございます。このバスを走らせた際に、山形鉄道さんにバスの運行による影響はということでお聞きしておりますけれども、1日20人程度というふうな利用でありました関係もありまして、山形鉄道さんの収益としてはほとんど効果がないというのが、山形鉄道さんの判断でございました。今回新しいバスを運行するに当たりまして、長井駅前をお借りしますので、長井駅前をバス停としてお借りしたいということで説明をさせていただいております。

ただ、この新しい運行によりましてどのくらい影響があるのかということまでは議論はしておりませんでしたので、もう一度山形鉄道さんとその辺は相談をしたいというふうに考えております。

なお、皆様のお手元に資料としてお配りさせていただいておりますけれども、シャトルバスの利用状況のアンケート結果から見ますと、致芳地区からの利用者は約1,000人程度と、11%ほどの利用でございますけれども、それが皆さん全員がバスに乗りかえるということではないかと思っておりますけれども、もし全員の皆さんがバスへ乗りかえたといいたしましても、山形鉄道への影響といいたしましても、一般利用客の0.9%ほどというふうな状況でございました。

なお、今回のバスにつきまして、成田駅につきましては郵便局前で停車をいたします。長井駅につきましては、長井駅前まで乗り入れをいたします。時庭駅につきましては、時庭駅口ということでバス停を設けてございますし、今泉駅にも直接乗り入れをするというふうな形をしております。病院への利用者が中心でありますので、時間帯はそちらの方を重点的にしておりますけれども、二次交通的な役割もある程度果たせるのではないかとというふうに考えております。ちなみに、現在予定しております運行時間帯で言いますと、バス停からバスを降りまして列車に乗り継ぐといったことを考えますと、30分から40分程度で乗り継ぎが可能だというふうな時間帯もございますので、ぜひ二次交通としての機能も果たしていければというふうな期待をしております。

今回のバスの切りかえにつきましては、県の方の協議会に申請をさせていただきました。県の方といたしましても、同じように現在のシャトルバスからの切りかえによる長井線への影響はないのかというような意見が確かにあったそうであります。その際の結論といいたしましても、二次交通的な役割も果たせるようなバス停を設けてあるということと、利用者の割合からいたしましても、影響力というのはさほど大きくはないのではないかとというふうな判断のもとに許可をいただいております。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 大分時間もありませんので、県の方も二次交通の役割として認めたというか、そうだろうということでしたのでいいのではないかと思います。

私は、将来その交通体系といいますが、ほかの市民バスというのですかね。西根バスと伊佐沢バスと今度の新しいバスと鉄道というものを総合的にやはり取り組んでいかなくはないかと思っておりますので、ぜひ将来、今自分たちで運

営しているバスも含めて、どのような体系できるかということをご検討に入っていただきたいと思います。

時間がありませんので、次に窓口のことですけれども、金曜日よりも月曜日の方が効果があるということでした。でも、毎日やってほしいのですよね。金曜日をやめて月曜日ではなくて、月曜から金曜まで毎日やってほしい。土日が多額なお金がかかるとすれば、毎日何でできないのでしょうか。先ほどの説明では、年間150時間のコンピューター契約のために、時間をオーバーすると非常にお金がかかるということ。お金のことを言いましたけれども、お金がかかることはわかりました。では、例えば仮にお金がかからないと仮定して、職員組合との折衝はじゃあオーケーということでしょうか。お金がかからなければすぐにでもできるということなのでしょうか。市民課長、お願いします。

鈴木良雄議長 小泉良一市民課長。

+ 小泉良一市民課長 お答えをいたします。

職員組合の皆さんとは、金曜日の6時までということでの今回の話し合いをさせていただきまして、了解をいただいたものでございます。そういったことからすれば、月曜日にかえるにしても、労働条件の変更というふうな意味合いでご協議申し上げていただければならない問題だし、さらにそれが毎日ということであれば、もちろん協議を申し上げていかなければなりません。そのことについては、まだ何もしていないところでございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 お金がかかるからできないというの、まず一つあるのですけれども、まずその問題は後回しというのかしいのですが、まず問題としてあって、もう一つは、いつでも毎日できるような状態まで職員組合との話し合いをしてほしいなと思います。もしかすると、こちらのIBMとの契約がどうなるのか。

今後ずっと一生、同じ契約で続くとも限らないのではないのでしょうか。いろいろお願いすれば、妥協してくれるところも出てくるのではないのでしょうか、何年後かには。ということは、今から職員組合と毎日延長するですか、土日開庁するですか、そういう話し合いをしていかなければ、もしもIBMの契約が変わったときに対応が全然できないということになりますので、いつでもできるのだと。いつでも対応できると。IBMさん、どうか協力してくれないかというくらい言えるくらいの体制をとってほしいなと思います。市長、いかがでしょうか。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 お金のことはさておいてということであれば、それはまず市民の要望があれば、これは検討して交渉もしなければいけないと思いますね。

ただ、県内の報告を聞きますと、3.7件からちょっとふえたといっても市ではふえましたけれど、4.0なのですね、毎週金曜日についても、そうすると、各地区も新たに三つぐらい踏み切りましたけれども、とりやめたのが2自治体あって、電話予約に変更しているとかですね。やはり各自治体ごとに非常に需要と供給の関係で、今検討をしながらいろいろな結論を出しているというようなところがありますから、そういったことはやはり参考にしながら、なお議論をしていきたいと。

庁内でもこの担当課は、もちろん市民課だけではなくて、税務課、福祉事務所、企画調整課、職員組合と、それから市民課と5者で今こままで来たわけでありまして、今後とも検討をさせていただきたいと思います。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ぜひそのように検討していただきたいと思います。

時間がなくなってしましまして、勤労青少年ホームのことはちょっと一言だけ。山形なんか

には、山形県若者就職支援センターなんか、若者限定というのですかね。若者に対するハローワーク的な何か動きが出てきたということ聞いております。ことしの6月からのようですね。酒田にもできておるようです。長井市の場合は、勤労青少年ホームと職業訓練校というのですか、訓練センターが併設になっています。これは非常に珍しいと聞いております。職業訓練、もしくはハローワーク的な職業あっせんというのですか、それと青少年ホームの活動をどうか一体化というか連携を組んで何かできないかなと私なりに考えております。その全国的なモデル地域になれば、何か新しい動きが長井市から発信できるのではないかなと思いますので、もう少し私も勉強して、また時間をいただいて質問させていただきますので、ぜひ検討していただくようお願いいたします。

それでは以上になります。ありがとうございました。

蒲生光男議員の質問

鈴木良雄議長 次に、順位2番、議席番号9番、蒲生光男議員。

(9番蒲生光男議員登壇)(拍手)

9番 蒲生光男議員 私が通告しております質問事項は3点であります。順次質問いたしますが、市長以下当局の皆さんからは、適切かつ明瞭な答弁をお願いをしておきたいと思っております。

17日間にわたるアテネオリンピックが閉幕し、熱い戦いと興奮を日本国民にもたらしめました。だれもが金メダルを疑わなかった井上康生選手はまさかの一本負け、浜口京子も銅メダル、とんでもないことが起こりそうだとアナウンサーが形容した女子800メートル自由形では、柴田亜衣選手が金メダル、私の所属するトライアス

ロンはもしかするとメダル、という期待は実現せず、男子田山が自転車で一時トップに出る、あるいはランでは6位でスタートするも後半失速し13位に終わりました。しかし、果敢に挑戦する田山の評価は高いものでした。三宅義信強化本部長は「戦う集団」を目指してアテネに乗り込みましたが、その片鱗をかいま見たものと評価しております。努力は正当に評価される。ハンマーの室伏選手が繰り上げ金メダルで、過去最高のメダル数で閉幕をしたわけであります。

最初の質問に入ります。このSWING GIRLSの封切りが11日から一斉に行われます。28日、この映画の試写会に行きましたが、試写会前の舞台あいさつに矢口監督やGIRLSのメンバー全員の話聞き、試写会終了後、GIRLS&A BOYの生演奏を聞いてきました。はっきり言って感動ものでございます。議長の許可をいただき、映画のチラシを配布させていただきました。新聞記事もあわせて配布させていただきましたので、ごらんになっていただきたいと思います。鈴木友子役の上野樹里、主演女優ですが、NHKの朝ドラの「てるてる家族」の3女秋子役に出ておりましたから、ご存じの方も多いと思います。

矢口監督は、あいさつの中で「フラワー長井線がピンチだと聞いていますが、この映画がきっかけとなり、存続できれば」と話をしておりました。ロケ地が置賜、フラワー長井線が白兔あたりを走る姿や、特に長井弁を使ったやりとりがまことにコミカル、そしておもしろく、おかしく、女子学生がジャズにはまり込んでいく姿が何ともほほ笑ましく、圧巻は最後の演奏会でのすばらしい演奏でありました。だれしものが魅入ること間違いのないと思います。

ピンチにあるフラワー長井線の後押しになると間違いのない私はと思いますが、市長も27日、試写会に行かれ、配給会社や関係者と懇談をしてこられたということでありますので、感想と